ラジオ技術100年史を語るコレクション

ー 日本ラジオ博物館 ー

日本ラジオ博物館　（2023年10月撮影）

日本ラジオ博物館は岡部匡伸（おかべただのぶ）氏が長年にわたって蒐集してきた貴重なラジオを展示している個人博物館である。展示館は松本市内に在る明治39年建築の土蔵を改築したものでクラシックな建物と旧いラジオが良くマッチしている。館内には鉱石ラジオから始まり、ラジオ放送開始直後に輸入された海外製ラジオ、戦前・戦中・戦後の国産真空管ラジオからトランジスタラジオまで200台以上の様々なラジオが年代順に簡単な説明付きで展示されている。

岡部氏の約2000点のコレクションはラジオ技術と放送の歴史を語る。一部は松本の博物館で展示しているが、WEBサイトの仮想博物館でもラジオと放送の歴史について解説している。

所 在 地：〒390-0821 長野県松本市筑摩3-10-1
開館時間：午後0時～午後4時（入館料500円）
開 館 日：土曜日、日曜日、祝日
　　ゴールデンウイーク、お盆休み
　※2023年12月11日より2024年3月中旬まで休館
アクセス：JR松本駅よりバス（タウンスニーカー南まわり）に乗車、「西筑摩」下車、徒歩7分
電　話：0263－27－2535

日本ラジオ博物館の展示　（2023年10月撮影）

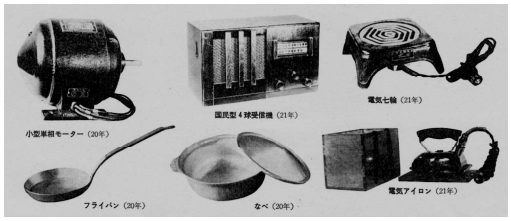
■ フィルモン電蓄 1938(昭和13)年製

日本フィルモン(株)が開発したフィルム録音帯を演奏する日本独自の電蓄で、幅35mm長さ13m厚さ0.3mmのセルロイドフィルムの音帯をピックアップで再生する。SPレコードの再生時間4分程度にたいして本フィルムは約35分と長い。卓上型のフィルモンは早稲田大学などに4台が保存されているが、コンソール型でSPレコード録音カッターも組込まれたフィルモンは、当館保有の1台のみである。

フィルモン電蓄　（1938年製）

■ トヨタ自動車工業製ラジオ1947(昭和22)年製

終戦後進駐軍からトヨタ自動車工業(現在のトヨタ)に対して自動車生産禁止令が出された。会社を維持して平和産業に転換を図る手段としてモーター、なべ、電熱器、ラジオなど民生品を生産した。ラジオは車の電装部品を生産していた刈谷南工場(後に日本電装)にて製作されたものでトヨタ苦難の時代を物語る貴重なラジオである。



トヨタが作った民生品　出典：『電装35年史』

トヨタ自動車工業製ラジオ（1947年製）

（渡辺治男）